

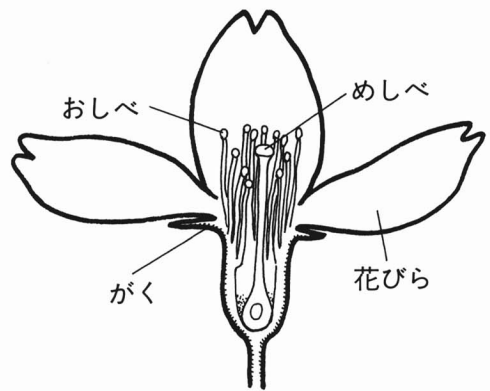
# 用語解説

秋の七草 (p.41) ……ハギ、クズ、カワラナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ、ススキの7種の草花のことをさします。春の七草もあります。

雄株と雌株 (p.8) ……1つの茎に雄花だけつく方を雄株、雌花だけつく方を雌株といいます。

雄花と雌花 (p.32) ……めしべがあっておしべのない花を雌花、おしべがあってめしべのない花を雄花といいます。

がく (p.10) ……花びらの外側にあつて、つぼみのうちは花びらを包んでおり、開花してからは花びらを支えているものをいいます。



火山岩 (p.61) ……マグマが地表近くまで流れ出し、急に冷えて固まってできた岩石をいいます。西会津町には流紋岩、玄武岩などがあります。

帰化植物 (p.7) ……もともと日本には生えていなかった植物で、いろいろな物に種子がついたりして日本に入って来て、それが広まった植物をいいます。

群生 (p.10) ……日当たりや土地の湿り気、気温などの状態が、その植物の成長に適しているため、たくさん群がって生えている様子をいいます。

坑口 (p.63) ……宝石や鉱物を掘り出すために、地中に掘り進んで行く通路を坑道といいます。坑道の入り口を坑口といいます。

食草 (p.44) ……幼虫などのえさとなる草のことをいいます。木の葉をえさとする場合は食樹といいます。

食虫植物 (p.33) ……普通の植物は養分を自分で作ったり根から吸収したりしていますが、モウセンゴケのように小さな虫をとらえ、葉からでる液でとかして養分にしてている植物のことをいいます。

侵食 (p.62) ……地層や岩石など、地表の表面が雨や流水、風、波などのたたらきでけずり取られる作用のことをいいます。